

この【四段】では、紛争の絶えない事由が陸奥の住民の性格に拠ることを記す。それは裏をかえせば、このよ
うな地に勇んで赴き、統治しようとした、滋実の多大の労苦と尽力を、改めて読み手に想起させる内容となつて
いる。そして後半より、こうした住民を利用し、わが私欲を肥すために、やつきになつてゐる、汚職まみれの受
領たちとその悪事に便乗する京の小役人どもの悪事を赤裸々に活写していく。

【五段】

原文

訓読

- | | | | |
|----|-------|---------------------------------|---------------------------|
| 33 | 便是買官者 | 便 <small>すなは</small> | ち是れ官を買ひし者 |
| 34 | 秩不知年幾 | 秩 <small>ち</small> | 年幾ばくなるかを知らず |
| 35 | 有司記曆注 | 有司 | 曆注 <small>こよみ</small> を記す |
| 36 | 細書三四紙 | 細書すること三四紙 | |
| 37 | 歸來連座席 | 歸り来たらば座席に連なり | |
| 38 | 公堂偷眼視 | 公堂 | 眼を偷みて視る |
| 39 | 欲酬他日費 | 他日の費 <small>ついで</small> に酬いんと欲し | |
| 40 | 求利失綱紀 | 利を求めて綱紀を失ふ | |

▼「藤原滋実の陸奥での国守としての功績・徳行」(その五)